

～支えあう 住みよい社会 地域から～

民児協だより



KANAGAWA



…まなざし… 地域で育む温かな絆

箱根町仙石原地区民生委員は、地域と子どもたちを結ぶ架け橋として幼児学園訪問を行っています。「地域の人や自然とのかかわりを通して、心豊かな子どもの育成を目指す」という園の目標に寄り添い、水鉄砲作りや泥団子作り、民生委員が先生となって工芸品を作成したり、散歩しながら落ち葉を集めて焼き芋をする体験活動をしたりしています。

このような交流が、子どもたちの豊かな心の成長に繋がることを願うと同時に、私達自身も子どもたちとの関わりに大きな喜びを感じています。温かい絆を地域に広げるために、世代を超えた触れ合いを大切に、地域全体で子どもたちを見守り温かく育む活動を今後も継続していきたいと思います。

(箱根町民生委員児童委員協議会)



No.
166
2026.9
秋

神奈川県民児協設立50周年
記念キャラクター「みんぴょん」

特集

◎海老名市民児協

充足率100%に迫ろう！

◎防災における民生委員の役割

◎新コーナー「主任児童委員の活動紹介」

●通信員だより(平塚市、大和市、南足柄市)

特集

海老名市民児協 充足率100%に迫ろう!



令和7年12月の一斉改選後、海老名市民児協では充足率100%を達成しました(令和8年1月1日時点)。

今回は海老名市の6地区の会長に取材のご協力をいただき、日頃より大切にしている取り組みや、昨年度の一斉改選に向けた取り組み等についてお話を伺いました。

一斉改選を終えたばかりですが、次の一斉改選に向けて課題意識を持っている地域が多くあると思います。海老名市民児協の取り組みから「なり手確保」と「現委員の定着」について、何か一つでも各地区での活動に繋がっていくことを願います。

県内における一斉改選の状況

昨年12月の一斉改選において、4,655名の定数のうち、委嘱数は4,205名であり、充足率は90.1%でした(政令指定都市除く)。

全国的に見ても、充足率は前回の改選時より2%減の91.7%となり、欠員数は約2万人に達し、「新たななり手確保」および「現委員の定着」両側面について、検討していかなければなりません。

委員の意識調査により課題を把握

令和8年7月の海老名市統計調査によると、約14万2千人の人口で、海老名市民生委員児童委員定数は157名(うち主任児童委員は12名)です。それぞれ地区を6つに分けて、例えば海老名駅西口地域の子育て世帯転入と、そのことに伴う児童・生徒数増加、市役所周辺、中新田地域の再開発等地域間格差を考慮しながら日々活動されているようです。

委員のなり手確保には以前から苦労しているとのこと。

この課題に対して、最初に取り組んだことは、問題解決の糸口を見つけるため、令和6年3月に委員の意識調査を実施しました。

課題解決に向けて取り組んだこと

その1◆委員活動の負担軽減

- ①年4回の全体研修会(対面)を3回に削減。
- ②活動ガイドブックの作成(3年に1度見直し)。引継ぎ物品の大幅削減。
- ③各地区においてLINEグループを作成。連絡・報告の軽減化。

その2◆ICT利用促進

- ①会議のオンライン開催
 - ◎天候の影響なし。移動に係る時間・身体的負担の大幅軽減
- ②全体研修会のオンデマンド視聴
 - ◎やむを得ず欠席しても、同じ内容を後日オンデマンドで受講可能
- ③ポータルサイト開設
 - ◎過去の資料等を容易に検索・参照できる。委員個人の資料保管の軽減。

各地区にタブレットを1台ずつ配布し、オンデマンド配信等の環境をサポートしています。



意識調査の調査項目について

- ・委員について(性別、年齢、在任期間)
- ・現在の就労状況(就業の形態)
- ・介護または子育ての状況
- ・負担だと感じる委員活動
- ・委員活動での悩みや苦労
- ・活動の中でやりがいや達成感を感じる時
- ・委員になってどのように感じているか
- ・委員活動を続けていくために希望すること

就労している割合は全体の約半数

調査の結果、次のような傾向がありそうだとわかりました。

- 仕事や介護・子育て中の委員が増えている。
- 期の浅い委員の割合が多い。
- 活動の負担感の増加

活動の負担感として「各種研修会・会議への参加」などがあげられました。

一斉改選に向けて特に 力を入れたこと

- 自治会への丁寧な働きかけ
- 退任委員や継続委員の人脈をフル動員してのなり手の掘り起こし
- 後任者が見つからない地域を定例会資料で公開し、全委員への呼びかけ
- 幅広い広報活動

「意識調査は、令和7年度の
一斉改選を見据えて行った
ものではないが、結果的に役
に立った」と話す海老名市民
児協 田中 昭雄会長(右)



各地区の民生委員紹介パネルは、手作りで作成され、あたたかさや親しみやすさを感じられます。



市役所ロビーでのパネル展示、小中学校やコミセン等でのパネル展示、商業施設等でのPR活動、えびな市民まつりでブース出展を行い、20代～40代への認知度向上を図る取り組み、年2回の広報誌の発行をしています。

広報のチカラ
「民生委員を知ってもらおう」と

ICTの活用にあたっては、慣れない委員に対するサポート体制を検討していくとのこと



(広報委員 高田充康)

ICT活用拡大
大雨や猛暑といった天候や災害時に対応するため、定例会のオンライン開催を視野に入れる。但し、委員間のコミュニケーション等の対面開催のメリットを生かすため、両面開催も志向。

事業内容の現状把握と継続の是非の検討
継続して実施している事業の価値と必要性を検証し、継続性検討。

見守りや訪問活動に重点を置いた活動

今後も引き続き力を入れて
行きたいと考えていること



地区会長のみなさん
ありがとうございました

充足率100%を達成した結果を踏まえ感じることは「少しずつ、いろんなことに取り組み、その効果を見ていくこと」とお話をいただきました。

- ◎今やるべきことを考えながら、
- ◎委員同士お互いを支え合い、
- ◎楽しく活動する

このことを全委員が共通意識として持つことが大切であること。新しいなり手確保だけでなく、現委員の定着にも目を向けた取り組みが、今回の結果に繋がったのだと感じました。

解説

防災における民生委員の役割

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学分野責任者 教授 小林 雅彦さん

1. 災害に向き合う大原則

全民児連が策定した「災害に備える民生委員・児童委員活動に関する指針」10か条には、「災害に向き合う大原則」として次の2点があげられています。

第1条 自分自身と家族の安全確保を最優先に考える

第2条 無理のない活動を心がける

民生委員は危険を冒したり無理をする必要はありません。何よりも自身の安全確保が大原則です。

2. 活動の中で優先順位をつける

発災時、民生委員は自治体や社協、近隣住民や町内会等、各方面から様々な依頼を受けます。

過去には「あちこちから色々なことを頼まれ混乱し、優先順位が分からなかった」「依頼の全部に対応していたら非常に疲弊した」という声がありました。

災害時、民生委員は何を基準にしてどんな活動を優先するか、平時から考えておく必要があります。ただし、これは個人で決めるといっても民児協として協議し整理しておくべき課題です。

3. 民生委員に期待される役割

災害時、住民は皆が被災者になりますが、中でも乳幼児世帯や子ども、独居高齢者、障害者などはより多くの困難に直面します。

民生委員の役割に優先順位をつけるとすれば、まずこれらの人の大変さに着目し、ニーズを受け止め、できる範囲で自ら支援をしたり、関係機関につなぐ等の役割が一番最初に来ると思います。

具体的には次のような役割が考えられますが、これらの人と平時から関係が出来ていればニーズ把握がスムーズにいくでしょう。その点では日頃からの関係作りが大切です。

① 乳幼児世帯の支援

災害時、乳幼児世帯には多くの支援が必要です。民生委員から積極的な声をかけ、困りごとや欲しいもの、おむつ交換や授乳等への希望を聴くと良いでしょう。

また、平時には自治体の備蓄品の種類や避難所の設備等を子育ての視点からチェックし、改善する役割も期待されます。

② 子どもの支援

子どもは災害で抱えたストレスを自ら解消する術を知りません。そこ

で、民生委員から積極的に声をかけて運動や遊びをしたり、丁寧に話を聴く役割が期待されます。もし病的な症状の場合には医療機関につなぐことも大切な役割です。

③ 独居高齢者の支援

被災した独居高齢者は、誰かと話すことで恐怖心が軽減します。民生委員としては話を聴くことに注力できると良いでしょう。

また、家の片付けが必要な場合、ボランティアの力を借りるための橋渡しができるとういでしょう。

④ 障害者の支援

発災時、障害者や家族は「皆が大変な思いをしているのだから」と我慢しがちです。民生委員から積極的に声をかけ、困りごとや要望などを引き出し、関係機関につなぐ役割が期待されます。

また、例えば視力障害者には音で、聴力障害者には目に見える方法でというように障害の種類の応じた情報提供の工夫も必要です。

4. 防災を巡る動向

民生委員の役割の参考になる防災を巡る動向を紹介します。

① 避難方法の多様化

かつて「避難＝避難所に行くこと」でしたが、現在は、在宅避難や車中避難等の「避難所に行かない避難」も推奨されています。そして、これらの被災者も現在は市町村の支援対象に

なっています。

② 新たな気象情報の理解

気象や避難に関して気象庁や自治体が出す情報の持つ意味を正しく理解する必要があります。特に新たな防災気象情報が2026年5月から運用されているので、そのフォローも必須です。

③ 個別避難計画

災害対策基本法により市町村が策定する個別避難計画には「避難支援等実施者」の氏名を記入する必要がありますが、民生委員がその任に着く義務はありませんし、現実的に不可能です。

民生委員には、計画作りを通して本人や住民に災害についてあらためて考えるきっかけとなるよう働きかける役割が期待されます。

④ 災害関連死

災害関連死が注目されていますが、原因の一つは被災後に体を動かさないことです。民生委員は、保健師などの取組みに協力して、健康体操やレクリエーションなどを通して予防のお手伝いをする役割が期待されます。



【参考文献】
小林雅彦著
中央法規出版
(発行日2025.11.10)

主任児童委員
活動研究レポートN0.1

主任児童委員活動からつながる「ずし子ども0円食堂」へ活動10年を迎えて

今号より不定期で、「主任児童委員」に取材を行い、日々の活動についてご紹介していきます。
第一号となる今回は、県民児協だよりの広報委員でもある、逗子市主任児童委員 川西 早苗さんにお話を伺いました。併せて、逗子市で取り組んでいる「ずし子ども0円食堂」についてもご紹介します。



名刺やパンフレット、ステッカーはMさんが手書きで作成



前任の方から「やってみたい？」と声をかけられたことがきっかけで主任児童委員の活動がスタートし、4期目を迎えた川西さん。

自宅でピアノを教えた経験や、小学校の特別支援学級の音楽療法士としての活動を通じて、子どもと接する機会が多かったこともあり、主任児童委員としての活動を引き受けました。

ファミリーサポートの活動や、児童相談所、子育て支援課との情報交換、逗子市の3中学校、5小学校の校長先生はじめ先生方とのお話を伺いながら、また、先輩委員や同期の支えもありながら、活動を積み上げてきました。

仲間がいるから続けられる

活動を続けていくことができている一番の大きな理由は、同じ主任児童委員の仲間たちのおかげ。嬉しいことを共有できるだけでなく、つらい事例や、心配なご家庭について、互いに相談したり、励ましあつたすることができ、とても心強いと話されます。



主任児童委員の皆さん

仲間の言葉を心の糧に

川西さんが活動される中で、大切に行っていることは、12月まで一緒に主任児童委員の活動をし、今年7月にお亡くなりになられたMさんの言葉でした。

「子どもは変わるから。子どもを

決めつけずにいいところをみつめてほしい」

川西さんはこの言葉を胸に、日々活動が続けています。

愛情いっぱいの
温かいごはん
子どもたちと地域に
笑顔をお届けます

ずし子ども0円食堂は、逗子市内の子どもたちの困っている現状を感じながらも、アプローチできないもどかしさを感じていた主任児童委員と、同じ想いを持つ仲間が集まり、今年で10年が経過しました。

食材は地域の方が持ち寄ってくださることも多く、運営費や食費は寄付により支えられています。一歩ずつ積み上げてきた活動は、地域住民にも届いていること、更には地域全体で、この食堂を支えていることが伺えます。

この食堂に関わる全員が和気あいあいと楽しんで参加していることが、10年続いてきた理由であると感じました。

(広報委員 内藤 佐敏)

孤独感を感じながら生活している人たちが増えていくように感じる現代において、時にはほんの小さなお節介が孤独を和らげ、外の社会へ一歩踏み出すための、大きなきっかけになることもあるのではないかと。地域の全ての人が当たり前のように「自分事」として考え、自然な形で関わっていく、そんな社会へ進んでいくためにはなにができるか。常に意識しながらこの食堂は続いていきます。



地元の小坪でも、子ども食堂のお手伝いをしています(小坪きょうちゃん食堂)

NEWS&インフォメーション



令和8年度第86回関東ブロック 民生委員児童委員活動研究協議 会(千葉県大会)の報告

7月30日(木)～31日(金)の2日間にわたり、千葉県の幕張メッセ・国際会議場で開催され、神奈川県民児協からは12名が参加しました。

オープニングは200名の習志野高校吹奏楽部による演奏。会場に響く迫力の演奏、「花咲く郷土」を空で歌ってくれて感激。このうちの何人かが民生委員になつてくれれば、と思ったのは私だけでしょうか。

記念講演は、筋肉を鍛えて95歳でも元気に暮らそう、という「筋

肉革命95」を提唱されている、脳神経外科医の酒向正春先生。脳に障害を負った人へのリハビリで歩けるようになった事例が複数報告され、さらに退院した人や高齢者

などすべての世代が元気になる街づくりに取り組まれているなど、地域で高齢者を支える仕組みづくりについて示唆に富む内容でした。

2日目は、「民児協の組織力向上に向けた取り組み」をテーマとする第4分科会に参加。各県市の実践報告を通して、「民生委員は楽しい」と思えるような民生委員相互のつながり、時間を大切にすることに改めて気付かせてもらいました。

(小田原市民児協会長 本田耕士)

大会2日目の分科会では、本県は長野県民児協、さいたま市民児協とともに「こどもまんなか社会」の実現に向けて、児童委員・主任児童委員だからできることをテーマとした第3分科会の実践報告を担当。本県の報告は、真鶴町民児協の青木和美会長にご協力をいた

できました。

青木会長は、「小さな町だからこそ」と題し、児童委員、主任児童委員が地域の関係者と連携しながら取り組んでいる、子どもや子育て家庭の見守り活動、居場所づく



分科会で実践報告する青木会長

若い世代を中心に、社会との接点が増え、スマホだけになっている人々の増加、マンシヨンのオートロック化など、子どもやその家族に直接的に関わったり、家庭を訪問したりすることが難しくなってきたという現代。そのような中でも、真鶴町民児協では民生委員・児童委員、行政、地域包括支援センター、社協、福祉事務所、教育委員会が定例会で一堂に会して状況を共有するなど、緊密に連携しながら、地域の子どもや子育て家庭と向き合っている様子が報告され、参加者からは驚きの声が聞こえました。

4つの分科会の内容は、後日、YouTubeにて限定公開が予定されております。各市町村民児協の事務局を通して、改めてご案内いたします。

- 第1分科会** 多様な機関や人々が連携・協働する地域共生社会にて求められる これからの民生委員とは
- 第2分科会** 「なりて確保」に向けた環境づくり
- 第3分科会** 「こどもまんなか社会」の実現に向けて、児童委員・主任児童委員だからできること
- 第4分科会** 民児協の組織力向上に向けた取り組み



参加者の皆さん

子育て家庭に町民児協から配布している「まなっこガイドブック」にも多くの参加者が関心を寄せ、実践報告が終わった後には多くの参加者が用意していた現物を閲覧していました。

令和8年度新任単位民児協会 会長研修会を開催しました！

7月14日、昨年度の一斉改選により新たに単位民児協の会長となられた委員、および令和5年度の新任単位民児協会会長研修会以降に新たに会長になられた委員を対象に研修会を開催しました。

この研修会では、民生委員・児童委員活動の第一線の拠点である単位民児協の運営を強化するため、単位民児協会長のあるべき姿について学び、これからの活動につなげていく機会とすることを目的としています。

また、一方通行の研修とならないよう、研修会後半にはグループワークの時間を設け、自身の言葉で話すことで、より理解を深めることができるようなプログラム構成としました。

講師には、駒澤大学文学部社会学科社会福祉学専攻教授の川上富雄氏をお招きし、次の大きな柱でお話



川上 富雄さん

いただきました。

○民生委員・児童委員の今日的な役割

○民生委員活動をめぐる諸課題と活動しやすい環境づくり

○単位民児協・民児協会長に期待される役割

当日は51名の方が参加し、「福祉観、支援観が以前とは変化しているように感じる。ニーズの多様化や、捉え方により、支援目標も拡大している。これらに少しでも近づけるよう、柔軟な考え方で寄り添ってコツコツ活動すること学んだ」等の感想が寄せられたほか、後半のグループワークを通じて、「同じ立場で意見を聞くことができ、大変参考になった」「自身の活動を振り返ることができた」等、日頃の活動を振り返り、悩みを共有できた機会となりました。



後日配信を スタートしています!!

当日の研修会の様子を録画した動画を配信しています。動画視聴をご希望の場合は、市町村民児協事務局までお問合せください。

【動画配信期間】

令和8年8月17日(月)～令和8年11月30日(月)

※配信期間の延長はできかねますのでご注意ください。

神奈川県民児協において、令和3年3月に新任単位民児協会長向けに小冊子を作成しました。単位民児協の役割や会長としての心構え、単位民児協という組織活動に関するほか、先輩委員の経験談や応援メッセージも寄せられています。県民児協ホームページ内の委員専用ページよりダウンロードできますので、ぜひご覧ください。



編集雑感



私は、2度目の主任児童委員を引き受けて現在1年目です。

今年、県民児協の広報委員を拝命しました。そこで他地区の民生委員の方々と知り合い、いろいろな活動をされていることを知りました。

今回の記事で「ずし子ども0円食堂」は興味深く拝見しました。10年も続いていらっしゃるの、皆様の努力の賜物だと思います。

私の地域では、2地区合同で行っている子育てひろば「ぽっかぽっか会」は月1回、保育園内で行っている「あゆっこルーム」は月2回のペースで開催しています。参加される親子がホッとできる居場所づくり、友達づくりのお手伝いをと心がけています。そして楽しかったと笑顔で帰っていたことを望んでいます。ただ最近、参加される人数が減少傾向にあります。チラシに公式LINEを掲載する等、予定がわかるようにしています。これからも地域活動に努めてまいります。

(広報委員 相原 久花)

通信員だより



平塚市

『シンパ』で仲間を育む

通信員 小玉 洋忠

社会生活は、少子高齢化に伴う構造的な進行により、慢性的な人手不足に陥っています。

この深刻な状況は、民生委員・児童委員にとっても例外ではありません。近年の「なり手不足」は、これから更に助長が予測されます。

私は平成28年12月に民生委員・児童委員に委嘱され、あつという間に4期に入り、ほぼ10年が経過、担当責務を全うしています。

委嘱当初は定員割れ2名欠員の中で、地区会長や諸先輩方が多忙を極めた活動をしていました。

令和元年に地区会長職を引き継ぎましたが、前地区会長や諸先輩方の欠員対応には、並々ならぬ苦労をされたこと目の当りにしていたので、今でも心に焼き付いています。我々にとって欠員対策は、重要項目の一つであり、全委員が強く認識し共有することが大事です。日々「欠員対策」を心掛けましょう。

お陰様で、この2期(6年間)は自治会ほか皆様の真摯なご協力を得て、欠員ゼロで推移、活動支援充実の足掛り、正に適材適所・ミスマッチなし。『シンパ』(シンパサイザー※)や素養を持った人、地域との関わり、郷土愛を持つ人の中から選出して、内容を分かり易く丁寧に説明の上、賛同いただける方を民生委員・児童委員候補生(仲間)として共に育んでいます。

※党派や組織に関わらず、その活動を心情的、物理的に支持する人

大和市

広報誌『ゆうゆう』から広がる輪

福田南地区民児協 保田 道子

福田南民児協では、大和市に所在する11地区民児協の一つであり、現在21名の委員により活動しています。組織内には部会及び委員会を設置し、それぞれが活動計画を策定しています。これらの計画は、毎月定例会において、審議・承認を経て決定されます。

広報委員会では、2種類の広報誌を発行しています。一つ目の「福田南民児協だより」では、平成29年1月の創刊以来、毎年1月に発行しており、委員の紹介や活動内容の周知・PRを主な目的としています。二つ目は、高齢者宅訪問時に配布する「民生委員・児童委員だより ゆうゆう」で、年3回発行しています。平成28年8月の創刊号発行以降、継続して刊行し令和8年4月号で第30号を迎えました。

これを記念し、同号を増刊号として発行しました。



札の辻自治会
取材した麻雀クラブ

本号では、自治会で活動する麻雀サークルを取材し、参加者の声を紹介しています。手先を使いながら戦略を考える楽しさが活力に繋がっているとの声が寄せられ、その様子を写真と共に掲載しています。今後地域に寄り添い、皆様に役立つ情報発信に努めてまいります。

南足市

移動スーパーで地域の見守り

通信員 柏木 勤

毎週火曜日の午後4時過ぎ、マックスバリュの移動スーパーが、地元広町自治会の地蔵尊にやってきました。

この事業は令和7年5月から、「便利なまちづくり」を目指すため、買い物に不便を感じている地域住民に対し、市がマックスバリュと連携して移動販売の取り組みを始めました。毎週1回決まった曜日、場所、当初は34自治会の内22自治会の43か所、現在は22自治会42か所で行われています。

地蔵尊では現在、平均6人の利用で来ない人がいると心配したり、次回に会えば「何かあったの?」と声を掛けあったり、安否確認や健康情報の交換などの場所にもなっています。



地蔵尊の前の移動スーパー

広町自治会では、この事業は民生委員が主に関わり、毎回利用を兼ねて様子を見に行き、利用者からの意見を聞いています。「ほかの場所でもやってほしい」「家から電話注文して受け取れるようにしてほしい」などの意見も出ています。

今は、自分がかもつと高齢になって、移動困難になる時まで続いてほしいという気持ちもあり、関わっています。

ホームページをご活用ください!

☆県民児協ホームページでは、民生委員・児童委員制度や活動に関する参考資料などを掲載しています。委員専用ページをご覧いただくためには、次のログイン情報をご入力ください。

